



災害時の効果的なボランティア活動支援を目指して

災害ボランティアセンター設置

# 運用訓練を奄美市で 開催しました!



11月21日に奄美市にある奄美振興会館において、災害時の迅速かつ効果的な被災者支援を目指して「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」を開催しました。当訓練は離島では初めて開催したもので、奄美群島内の社会福祉協議会役員をはじめ、民生委員、自治会等約50人が参加して行われました。

**午前中は、** 訓練に先立ち「災害時のボランティア活動とは」と題し、災害ボランティア活動の意義や注意点等について、県社会福祉協議会ボランティアセンターの職員が講義を行いました。講義の中で、平成17年に発生した県北部豪雨災害時のボランティア活動の事例を交え、県内においても災害ボランティア活動への意欲が高まっていることを説明しました。参加者のほとんどは、災害ボランティア活動に参加した経験はありませんが、活動に参加した気持ちで真剣に聞き入っていました。

また、講義後に実施した「非常炊き出し訓練」では、災害時を想定し、電気を使用せずに移動式ガス釜でご飯を炊く訓練を実施しました。ハイゼックス（強化ビニール袋）に米と水を入れ、空気を抜いてゴムで縛り、釜に入れ、炊き上がるのを待ちました。炊き出したご飯は昼食としていただきましたが、参加者のほとんどは初めて食べる方が多く、災害という非常事態を想定して試食していました。

**午後からは、** 地震や大雨で家屋倒壊や崖崩れが発生したとの想定で訓練を実施しました。参加者は仮想の「被災者」「ボランティア」「災害ボランティアセンタースタッフ」に分かれて行いました。災害ボランティアセンターではそれぞれの係がセンターに訪れた仮想ボランティアに対し、ボランティアへの登録・保険加入・マッチング（需給調整）・送り出しまでの一連の手続きを行い、また、仮想被災者からボランティアニーズの聞き取りを行う訓練を行いました。

災害ボランティアセンターの各係は、多数のボランティアが同時にセンターに訪れた想定で行った為、はじめは手続きに戸惑っていた様子でしたが、被災者のニーズに合ったボランティアが派遣できるよう懸命に訓練に臨んでいました。



講義



非常炊き出し訓練



災害ボランティア登録



マッチング（需給調査）

今回、離島で初めて実施した「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」でしたが、台風や大雨の多い地域という事情もあり、参加者それぞれが熱心に取り組み、有意義な訓練となりました。